

## 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

長谷川 達人

2023年度の優秀教員に選定いただき大変光栄に思います。毎年恒例で本レポートに書く内容が思いつかぬ状況ですが、ご指定いただいている「日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負」に関して、今一度考えてみたいと思います。

様々な場所でも述べさせていただいておりますが、私の講義では大きく2点の工夫を行っております。1点目は、質問対応を徹底していることです。毎講義 Google Form で出席クイズ+感想+質問を入力してもらい、次回の講義までに1問1答形式で回答してClassroom上で共有しています。質問件数は最近はそれほど多くないですが、毎回ちらほらは投稿があります。2点目は、リアルタイムコメントスクロールシステム (<https://www.mirai-kougaku.jp/lesson/pages/65.php>) を使っていることです。上手く使うには少々コツが必要です。毎講義でXXについて解けたらコメントしてくださいといった声掛けを行って利用機会を作りつつ、雑談可&タメ口可として投稿しやすい空気を醸成しています。慣れてくるとしょうもない雑談コメントも飛んできますが、一歩踏み込んだ質問が飛んできたり、授業の進む速度を調整したり、学生が上手に使ってくれています。私としても最近では、本システムで双方向にした方が圧倒的に授業をすることが楽しいです。ここで、本年いただいた優秀教員の投票結果を見てみますと、「授業がわかりやすかった」、「質問に対応が良かった」、「リアルタイムコメントが良かった」が同数程度でした。

一方で、昨年も問題提起した通り、教員の業務負担は膨大という問題があります。現在、学部講義は原則対面開講とされていますが、1回目の講義の際にアンケートを取って、対面かオンデマンドかを希望調査した結果、13:4:4でオンデマンド:対面:どちらでもという回答でした。コロナ禍を乗り越えた学生だからか、オンデマンドの需要は変わらずあるようです。私の講義では全ての回で録画+動画公開を行って復習しやすい環境を構築しています(どのくらい活用されているのかは疑問ですが...)。その上で、数回(本年は4回)オンデマンド開講を混ぜる方式を採用しました。事前に該当日をアナウンスし、いつでも動画受講を行って良いとしています。本方式によって、教員の負担を多少削減した上で、バランスをとった講義ができたかと考えますが、講義資料の改善とともに今後の改善課題したいと思います。

最後になりましたが、本賞を受賞できましたことは、様々な支援を頂いた学科を始めとする周囲の皆様のご助力のおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。